

赤松金芳著「新訂和漢薬」より

生薬名 蟾蜍

新訂和漢薬 記載頁

864

基源 蟾蜍: 無尾類ヒキガエル属 *Bufo* sp. の肉, 皮膚分泌物。
中国産はアジアヒキガエル *B. bufo asiaticus* Steind, 日本産はニホンヒキガエル *B. vulgaris japonicus* Sehl.
等より採る。

部位 肉: 日乾. 供乾. 酒浸酥炙. 風乾煨 [本草綱目], 炙乾灼末 [一本薬選];
皮膚分泌物 (蟾酥) [表皮腺分泌液に麵粉を混和乾燥する].

作用 肉: 微毒. 殺疳虫 [証類本草, 本草綱目], 殺虫 [一本薬選].

皮膚分泌物 (蟾酥): 有毒. 解毒, 止痛 [満洲漢薬].

応用 肉: 小兒勞瘦府疾 [証類本草, 本草綱目, 一本薬選], 面責癩氣, 鼠漏, 癩瘡, 惡瘡 [証類本草, 本草綱目], 脱肛, 痔疾, 走馬牙疳, 疳蠹, 瘡疾, 陰蝕, 広癩, 獬犬傷, 腫毒, 破傷風, 附骨疽, 折傷 [本草綱目].

皮膚分泌物 (蟾酥): 小兒疳疾, 齒縫出血, 牙疼, 癩背, 惡腫疔瘡 [本草綱目], 喉痺 [本草綱目, 満洲漢]

処方

備考